

## 4 地球温暖化対策に関する千代田区の課題

千代田区では、前計画に基づき地球温暖化\*対策を進めてきましたが、社会・経済の情勢の変化により、新たな課題もあります。これらの課題を解決するための有効な対策を重点的に推進することが必要です。

### 区民の温暖化配慮行動における課題

- **膨大な人数にのぼる昼間区民の主体的な取り組みが必要**

昼夜間人口比率\*が全国の自治体で最も高い千代田区では、区内在住の人々だけでなく、昼間区民による主体的な取り組みが必要です。

- **家庭で取り組む CO<sub>2</sub> 削減対策が必要**

各家庭における省エネはこれまで推進してきましたが、さらなる削減のためにはもう一步踏み込んだ対策が必要です。

- **区民が我慢するのではなく、快適に取り組める対策が必要**

生活に必要な行動を我慢するのではなく、快適に取り組める温暖化対策が必要です。

昼夜間人口比率：算定式（昼間人口 ÷ 夜間人口 × 100）で求められる値で、夜間人口に対する昼間人口の多さを示している。千代田区は 1,738.8（2010 年国勢調査調べ）で全国の自治体で最も高い。

### 事業者の温暖化配慮行動における課題

- **事業者の規模に応じた対策が必要**

区内には、先進的な対策に取り組んでいる大規模事業所が存在する一方、経済的な理由等により抜本的な対策に取り組みにくい中小規模事業者も存在します。それぞれの事業者において、取り組みレベルに応じたさらなる対策のステップアップが求められます。特に、中小規模事業者が取り組むうえで参考となるような、モデル的な取り組みが必要です。

- **経営改善の手段としての温暖化配慮行動の推進**

事業者が温暖化対策を事業活動における負担と捉えるのではなく、経営改善に役立つ手段として率先的に取り組む機運を高めることが必要です。

## まちづくり・地域交通における課題

### • 千代田区におけるエネルギー利用のあり方

千代田区はエネルギーの大消費地であり、今後も活発な経済活動を背景としたエネルギー需要が予想されます。区内におけるエネルギーの利用のあり方の検討と、その実現のための仕組みの構築が必要です。

### • エネルギーを自給できる自立分散型エネルギー\*の導入

東日本大震災を背景として、区内でも災害時にエネルギーを自給できる自立分散型エネルギーの導入が必要です。

### • 都市部における低炭素な地域交通手段としての自転車の活用

まちづくりや地域交通における取組みと連携し、低炭素な地域交通手段として、自転車の活用が必要です。

## 千代田区の社会的役割としての課題

### • 低炭素型社会\*のモデルとしても機能する温暖化対策の推進

わが国の政治経済の中核であり、東京都内で唯一の「環境モデル都市\*」である千代田区においては、都市型の低炭素型社会のモデルとしても機能する温暖化対策の取組みが必要です。

### • 東京オリンピック・パラリンピック開催に向けた区内の取組みの発信強化

2020年に開催が予定されている東京オリンピック・パラリンピック大会は、国内外から多くの人々が訪れる大きなイベントであり、この機会に向けて区の取組みの発信力を強化することが必要です。

## 計画推進における課題

### • 多様な主体間の連携強化

現在取り組んでいる地球温暖化対策をより拡大し、大きな成果を得るためには、各主体が個々に活動するだけでなく、多様な主体が連携・参画して大きな対策を講じる必要があります。